

わたしの手 あなたの手 みんなの手 地球を救えるみんなの手



市長インタビュー

「学校版環境ISO」を実施します

●学校版環境ISOプログラムを市内の全小・中学校(48校)で導入することになりますが、思いをお聞かせください。

齋藤市長 私は、市民の皆様の生活に「緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち」を実現するため、都市環境の保全創出に積極的に取り組んでいます。その一環として、市役所本庁舎をはじめ西部クリーンセンター・消防本部でISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、所沢市環境方針のもと「自然を大切に、環境への負荷の少ない持続的発展可能なまちところざわ」を目指しています。いよいよ今年度から、市内のすべての小・中学校で「学校版環境ISOプログラム」を導入する運びとなりました。このような大規模な取り組みは全国でもまれであり、主役である子どもたちが環境問題に関心を持ち、積極的に取り組んでいることは、たいへん意義のあることです。

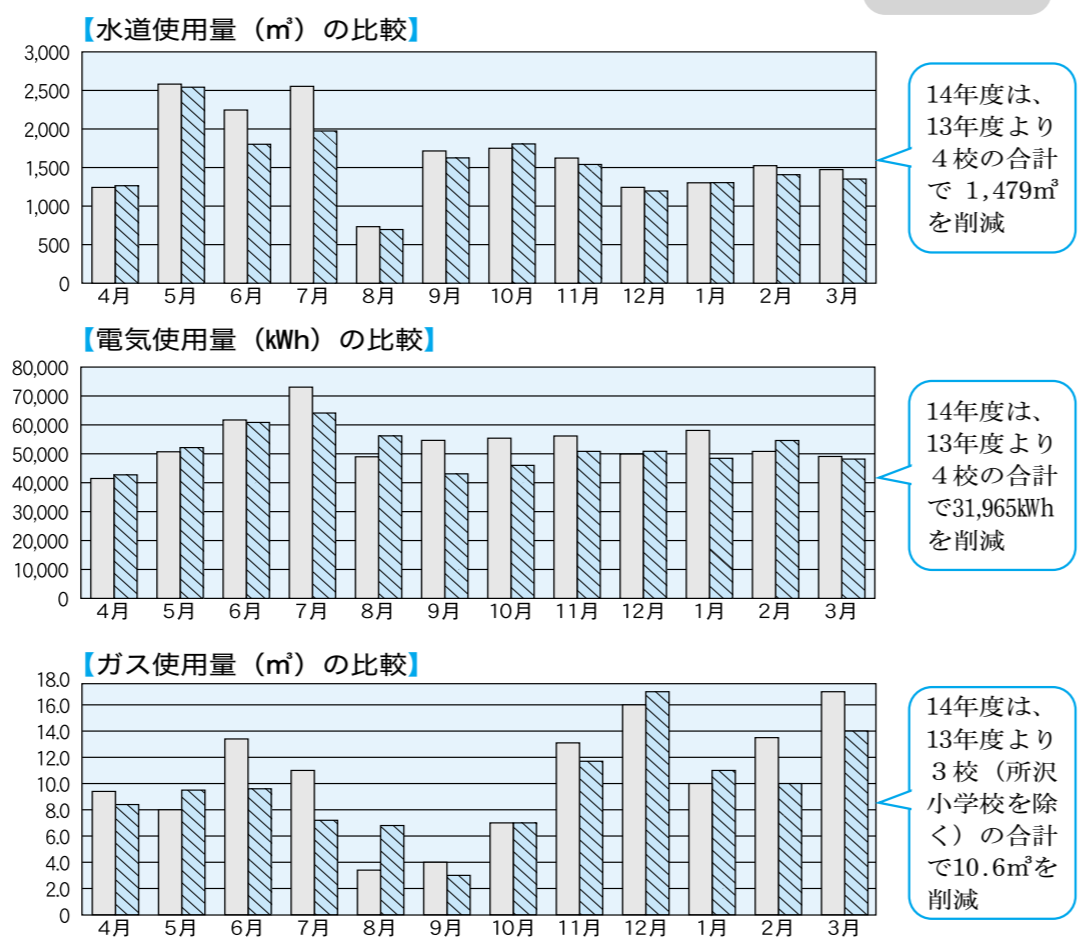
そして、未来の「ところざわ」を担う子どもたちが地球を救う活動の力強い牽引力となり、教職員・保護者、さらには地域と一体になって、さまざまな取り組みを展開していただけることと大いに期待しています。

昨年度、既に本プログラムを導入した4校では、各校の主體的な活動により、すばらしい成果が上がっています。本プログラムの導入をきっかけに、私たちのまちところざわの豊かな自然、ひいてはかけがえのないこの地球環境を守っていこうとする活動がさらに発展するよう、市では、すべての小・中学校が「地球にやさしい学校」として環境教育の推進に取り組めるよう支援していきます。

本プログラムの導入に際し、児童・生徒の皆さん、そして市民の方々のご理解とご協力をお願いします。

学校版環境ISOプログラム

■図3：導入校における、13年度と14年度の水道・電気・ガス使用量の比較



■図1：環境ISOを基軸とした事業展開の枠組み



※EMS (Environmental Management Systems) = 環境マネジメントシステム



この取り組みでは、各小・中学校が自らの教育活動を通じて、児童・生徒、教職員および保護者の環境意識を高めると同時に、自ら

市では、認証取得したISO14001環境マネジメントシステムの理念と行動を市民や事業者の皆さんに普及促進していくため、さまざまな事業に取り組んでいます。

今回は、昨年度から市内の小・中学校で導入を開始した、学校版環境ISOプログラムについて紹介します。

このプログラムは、教育活動を通じて環境意識を高め、学校ごとに定めた環境方針と行動目標に応じ、環境に配慮した行動をとることを目的としています。

※問い合わせ 教育委員会学校教育課 (☎998-10238・FAX998-19167)

環境ISO(ISO14001)を基軸とした事業展開

市では、環境基本計画に掲げた「市の環境行動指針」に基づき、率先して環境行動に取り組む姿勢を組織内外に明らかにするため、平成12年2月10日、環境管理の国際規格である「ISO14001」の認証を取得しました。

市はこれを契機として、環境ISOの理念と行動を市民や事業者の皆さんに普及促進していくため、4つの枠組み(図1)で、さまざまな事業に取り組んでいます。

定めた環境方針と行動目標に応じ、環境に配慮した行動をとることを目的としています。

このプログラムの基本的考え方は次の4点です。

①学校のすべての教育活動を通じて、環境に配慮した行動(環境行動)に取り組むためのプログラムです。

②児童・生徒、教職員および保護者が自ら約束したことを実行して、その実績を評価し、不十分などを見直しながら継続的に環境を改善させていくためのプログラムです。

③具体的な実施方法や手段については、「仕様及び利用の手引き」に定められたプログラムの枠組み(図2)の中で、学校が主体的かつ自由に選択できるプログラムです。

④プログラムは、学校における取り組みを通じて、年に一度見直しを行い、必要に応じて改善を図っていきます。

環境月間のイベント

◆環境月間啓発展示

とき 6月9日(月)～13日(金)
ところ 市役所1階・市民ホール

【内容】

- 省エネ・地球温暖化パネルの展示
- 雨水簡易貯留槽の展示
- 東部クリーンセンター・リサイクルふれあい館「エコロ」の紹介ほか

◆第11回・所沢市環境フォーラム

とき 6月28日(土)午後1時～
ところ 市民文化センターミュージズ・中ホール

テーマ 「わたしの手 あなたの手 地球を救えるみんなの手」

【内容】

- 第1部…環境推進活動功労者表彰式
 - 第2部…「環境にやさしい取り組み」事例発表(所沢小学校の学校版環境ISO)
 - 第3部…人形劇「救え! 緑の星を」
- ◎当日、ミュージズ・情報市場で、緑の基金100円玉募金による苗木配布も行います。
- 問い合わせ 環境総務課 (☎998-9133・FAX998-9394)



空かん拾いをする子どもたち

- 省エネ・地球温暖化パネルの展示
- 雨水簡易貯留槽の展示
- 東部クリーンセンター・リサイクルふれあい館「エコロ」の紹介ほか
- 省エネ・地球温暖化パネルの展示
- 雨水簡易貯留槽の展示
- 東部クリーンセンター・リサイクルふれあい館「エコロ」の紹介ほか
- 省エネ・地球温暖化パネルの展示
- 雨水簡易貯留槽の展示
- 東部クリーンセンター・リサイクルふれあい館「エコロ」の紹介ほか

平成14年度導入校の取り組み事例

4校における、平成14年度の取り組みについて紹介します。

各校では、それぞれに定めた実行プログラムに沿って、次のような環境行動に取り組まれました。

- 電灯のこまめな消灯
- エアコン温度の設定の工夫
- 水道水の節約
- 雨水の利用
- ごみの減量化

年度に環境教育推進費として還元します。この環境還元型予算は、他の自治体では例のない所沢市独自の施策です。

そして、平成15年度から学校版環境ISOプログラムへの取り組みが、市内の全小・中学校(48校)で始まりました。

環境教育推進費を還元

平成14年度には、所沢小学校・清進小学校・北野小学校・安松中学校の4校が、モデル校として学校版環境ISOプログラムの導入を開始しました。そして、各校の取り組み状況を踏まえ、平成14年11月5日、市長・教育長の連名で、「地球にやさしい学校」の認証証を交付しました。

認定された4校には、それぞれの学校の電気・ガス・水道使用量の節約分に応じた費用を、平成15

●古紙や空き罐の回収

また、各教科や総合的な学習の時間で、環境を考える学習などにも取り組みました。

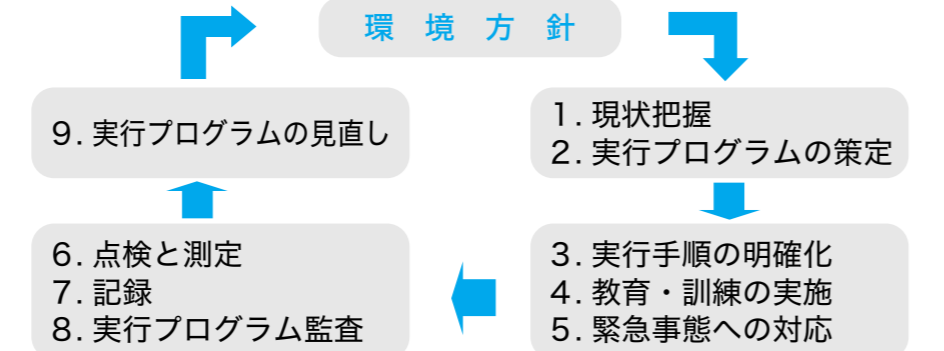
学習にあたっては、児童・生徒が電力会社の方や市の担当職員から環境問題についての説明を受ける活動や体験的な活動なども取り入れられました。

これらの取り組みの結果、平成13年度に比べ、平成14年度の4校の水道・電気・ガスの使用量は減り(図3・表1)、児童・生徒、教職員および保護者の地球環境を守る意識も向上してきました。

平成15年度から市内の全小・中学校で学校版環境ISOプログラムを導入することにより、大きな成果が期待されます。

市では、今後も率先して環境行動に取り組んでいきます。この美しい地球環境を未来に残すためにも、皆さん一緒に活動していきましょう。

■図2：学校版環境ISOプログラムの枠組み



■表1：導入校における、14年度の水道・電気・ガス使用量の削減実績

	13年度-14年度	効果割合	4校での削減効果CO ₂ 削減量	児童・生徒1人当たりの削減量	市内全児童・生徒に換算した削減量	市内全児童・生徒に換算した削減効果CO ₂ 削減量
水道	1,479m ³ の削減	7.4%	872.6kg/CO ₂	0.6m ³	14,895m ³	8,788.3kg/CO ₂
電気	31,965kWhの削減	4.9%	12,274.6kg/CO ₂	12.1kWh	321,927kWh	123,620.0kg/CO ₂
ガス	10.6m ³ の削減	8.4%	21.1kg/CO ₂	0.01m ³	153.95m ³	306.5kg/CO ₂

※排出係数：▶水道…0.59▶電気…0.384▶ガス…1.991

48校すべてが取り組んだ場合の水道・電気・ガスを合わせた、市内全児童・生徒に換算した削減効果CO₂削減量

132,714.8kg/CO₂の削減が見込まれます。

これを原油に置き換えると、ドラム缶約440本分の省エネルギーに当たります。



私たちが守る地球

吉田 小雪さん (所沢小学校6年)

節水・節電…。私たちにできることは、いっぱいあります。でも、いっぺんにはできないので、一つ一つやっていけばいいと思います。

私はそれに取り組まれました。最初はできるかどうか分かりませんでしたが、やってみたら、すごくやりがいのある仕事だと思いました。

自分がやっていることを続けていけば、地球を守ることができると思うと、この仕事が楽しくなります。

一人ひとりの力を合わせれば、もっと美しい自然や地球になります。



つなげよう 私たちのISO

上村 浩美さん (所沢小学校保護者)

子どもたちが大きくなったときの地球が美しいものでありますようにと願いながら、未来のために私たちが心がけて行動しなくてはならないことがたくさんあると思います。

そんな中、ISOをテーマに子どもとともに電気や水の節約に取り組む機会を得たことは良いことです。

子どものころから環境問題を意識するのは大切なことだし、一人ひとりが身の回りから始め、家庭・学校・市そして県や国へと、みんなで輪を広げられたらと願っています。